

船津高志

96) 船津高志 「単一分子計測とバイオフォトニクス」 (Single molecule detection and Biophotonics) 第91回微小光学研究会バイオフォトニクスと微小光学 2004年3月京都

97) 谷井孝至、張 国軍、保坂 匠、三宅丈雄、座古保、船津高志、大泊巖 「有機シラン単分子膜の電子線パターンニングによる生体分子の高密度配列固定」 第51回春季応用物理学会 2004年3月 東京工科大学

98) Takashi Funatsu "Single-Molecule Imaging of Biological Functions" The 53rd Annual convention of the Pharmaceutical Society of Korea 2004, April Chungnam National University, Taejon, Korea (韓国大田市)

99) 村山研、長尾朋和、鞍馬秀輝、長谷川明洋、船津高志、南谷晴之、新井孝夫、中山俊憲、鈴木和男 「血管炎における活性化好中球のCD69分子」 15回日本生体防御学会 2004年7月 長崎

100) 柳原 直紀、多田隈 尚史、石浜 陽、船津高志 「アンチセンス oligoDNA の結合を指標とした GFP mRNA の2次構造解析」 第6回日本 RNA 学会年会 2004年8月熊本

101) 野中聖子、角田誠、青山千頭、船津高志 「HPLCカラムスイッチングシステムを用いたNO₂阻害物質の高感度定量法の開発」 日本分析学会第53年回 2004年9月千葉工業大学

102) Kohki Okabe, T.Santa, T. Funatsu, and K.Imai : Study on Fluorescence Properties of Benzofurazans for the Development of Hydrophilic Fluorescent Reagents, The 11th International Symposium on Luminescence Spectrometry-Detection

Techniques in Biomedical and Environmental Analysis 2004年September 中国北京

103) Chiaki Aoyama, T.Santa, T. Funatsu, and K.Imai "A fully Automated Amino Acid Analyzer Using NBD-F as A Fluorescent Derivatization Reagent" The 11th International Symposium on Luminescence Spectrometry-Detection Techniques in Biomedical and Environmental Analysis 2004年September 中国北京

103) Tatsuoka, M., T.Shimomae, Y.Shirasaki, J.Tanaka, J. Mizuno, T.Edura, K.Tsutusi, Y.Wada, S.Shoji, and T.Funatsu 2004, "2D Free Space Flow Control System using Thermoreversible Gelation of Polymer by IR-Laser" μ TAS 2004 Malmö Sweden, 2004, September

104) Makoto Tsunoda, T.Funatsu, and K.Imai : Investigation of Catechol-O-Methyltransferase Activities in SHR, Global Conference on Cardiovascular Clinical Trials and Pharmacotherapy 2004年September, Hong Kong

105) 平野陽子、角田誠、下澤達雄、松井宏光、藤田敏郎、船津高志 2004年 「Dahl食塩感受性ラットにおけるCOMT活性の検討」 第27回日本高血圧学会総会 2004年10月 栃木

106) 山岸舞、村山研、坂本明彦、新井孝夫、鈴木和男、船津高志 「好中球に活性化にともなうCD69分子の細胞膜表面移行のイメージング」 第13回日本バイオイメージング学会学術集会 2004年11月京都

107) 船津高志 「1分子イメージングでタンパク質の機能を探る」 第25回日本レーザー医学会総会 2004年11月 東京

108) 船津高志 「生体分子の1分子検出の研究動向」 未踏・ナノデバイステクノロジー

- 第151回委員会第70回研究会 第4回
「ナノバイオフュージョン分科会」 2004年
11月 早稲田大学
- 109) 東條正、多田隈尚史、松島綱治、船津高志
「G蛋白質共役型受容体は恒常的に多量
体を形成する:蛍光一分子イメージングによ
る解析」 第26回生体膜と薬物の相互作用
シンポジウム 2004年11月 東京
- 110) 上野太郎、谷井孝至、島本直伸、三宅丈
雄、大泊巖、庄子習一、船津高志 「ナノ開
口を用いた弱い生体分子間相互作用の1分
子検出」 日本生物物理学会第42回年会
2004年12月 京都
- 111) 三浦貴宏、座古保、上野太郎、船津高志
「シャペロニンGroELのC末端欠損変異体
の機能解析」 日本生物物理学会第42回年
会 2004年12月 京都
- 112) 岡谷実季、山岸舞、船津高志 「蛍光顕
微鏡を用いたアクチンの折りたたみ機構の
解析」 日本生物物理学会第42回年会
2004年12月 京都
- 113) 柳原直紀、多田隈尚史、石浜陽、船津高志
「アンチセンスoligoDNAの結合を指標
としたGF-PmRNAの2次構造解析」 日本
生物物理学会第42回年会 2004年12月
京都
- 114) 寺田尚史、多田隈尚史、石浜陽、座古保、
船津高志「蛍光相関分光法を用いた細胞内
でのGFPの並進拡散運動の解析」 日本生物
物理学会第42回年会 2004年12月
- 115) 永川豊広、鞍馬秀輝、貴家康尋、原田慶
恵、船津高志 「B-actin mRNAと
zipcode-binding protein 1の結合・解離の
キネティクス」 日本生物物理学会第42回
年会 2004年12月 京都
- 116) 山岸舞、村山研、坂本明彦、新井孝夫、
鈴木和男、船津高志 「斜光照明蛍光顕微鏡
による好中球のCD69分子の細胞膜表面
移行のイメージング」 日本生物物理学会第
42回年会 2004年12月 京都
- 117) 石浜陽、多田隈尚史、谷時雄、船津高志
「mRNA スプライシング反応の1分子蛍光
顕微分光観察」 日本生物物理学会第42回
年会 2004年12月 京都
- 118) 杉野弘和、白崎善隆、和田恭雄、江面知
彦、庄子習一、船津高志 「温感性ハイドロ
ゲルを用いたマイクロソーターの改良」 日
本生物物理学会第42回年会 2004年12
月 京都
- 119) 白崎善隆、泉俊光、水野潤、庄子習一、
和田恭雄、月田承一郎、船津高志 「温感性
ハイドロゲルを用いたマイクロソーターの
開発」 日本生物物理学会第42回年会
2004年12月 京都
- 120) 辰岡正康、下前智宏、渡部翔太、白崎善
隆、水野潤、庄子習一、和田恭雄、船津高志
「生体物質のマイクロチップ内二次元ハン
ドリングシステムの開発」 日本生物物理学
会第42回年会 2004年12月 京都
- 中山俊憲
- 121) 中山俊憲 “I型アレルギー疾患の病態モ
デル評価系” 公開シンポジウム ナノとバ
イオイメージングの融合と医用への展開—
安全な医薬・治療法へのアプローチ—
2004年1月9日 東京
- 121) 中山俊憲 “Th1/Th2細胞分化制御と気
道炎症” 第4回鎌倉カンファレンス 特別
講演 2004年4月17-18日 大磯、神奈川
- 122) Nakayama, T.: Chromatin remodeling
of the IL-5 gene locus in developing Th2
cells. The Kenneth R. Wilske Lecture Se-
ries in Science and Medicine 2004
4/26/2004, Seattle, USA
- 123) 中山俊憲 “Th1/Th2細胞免疫システム
の形成と維持” 第22回日本耳鼻咽喉科免
疫アレルギー学会 教育講演 2004年3月

- 25-27日 札幌
- 124) 中山俊憲 “Th1/Th2 細胞分化と気道炎症制御” 生体防御機能異常ワークショップ 2004 第7回肝臓生物学研究会合同年会 特別講演 2004年6月17-18日、沖縄
- 125) 中山俊憲 “NKT細胞によるTh1/Th2細胞分化と気道炎症制御” 第54回日本アレルギー学会総会シンポジウム 2004年11月4-6日 横浜
- 126) Nakayama, T.: Regulation of chromatin remodeling at the Th2 cytokine gene loci 第34回日本免疫学会総会・学術集会シンポジウム 2004年12月1-3日、札幌
- 127) 中山俊憲 “Th1/Th2 細胞分化と気道炎症制御” 厚生労働科学研究費萌芽の先端医療医療技術推進研究事業ナノメディシン分野研究報告会ナノメディシン公開シンポジウム 2004年12月7日、東京
- 128) Nakayama, T.: Chromatin remodeling of the Type-2 cytokine gene loci during Th2 and Tc2 cell differentiation. The Immune System: Development, Activation, and Manipulation 2004 February 16-17, Tokyo
- 129) 中山俊憲 NKT 細胞免疫系活性化によるがん免疫療法 第1回日本癌学会カンファレンス「癌の免疫的制御—次世代癌治療の創生を目指して—」 2004年2月26-28日、蓼科
- 130) Nakayama, T., Yamashita, M., and Omori, M.: A role for ROG, repressor of GATA, in CD8 T cell-specific downregulation of histone hyperacetylation and gene activation of the IL-4 gene locus. *Experimental Biology* 2004 2004. April 17-21, Washington, DC, USA
- 131) 中山俊憲 Th1/Th2 細胞免疫システムの形成と維持 第22回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会 2004年3月、札幌
- 132) Kaji, T., Hachimura, S., Asai, K., Enomoto, M., Ise, W., Nakayama, T., and Kaminogawa, S.: Caspase activation results in the selective impairment of TCR-induced calcium NFAT pathway in *in vivo* orally tolerized CD4 T cells. 12th International Congress of Immunology and 4th Annual Conference of FOCIS 2004 July 18-23, Montreal, CANADA
- 133) 山下政克、細川裕之、中山俊憲 CD4 メモリーT細胞のクロマチンリモデリング 第14回 Kyoto T Cell Conference 2004年6月4-5日、京都
- 134) 木村元子、長谷川明洋、中山俊憲 Schnurri-2によるTh2細胞分化制御 第14回 Kyoto T Cell Conference 2004年6月4-5日、京都
- 135) 長谷川明洋、村田薫、中山俊憲 関節炎の発症における CD69 分子の役割 生体防御機能異常ワークショップ 2004 第7回肝臓生物学研究会合同年会 2004年6月17-18日、沖縄
- 136) 村山研、長尾朋和、鞍馬秀輝、長谷川明洋、船津高志、南谷晴之、新井孝夫、中山俊憲、鈴木和男 血管炎における活性化好中球の CD69 分子 第15回生体防御学会 2004年7月8-10日、長崎
- 137) Murayama, K., Nagao, T., Kurama, H., Hasegawa, A., Funatsu, T., Minamitani, H., Arai, T., Nakayama, T., and Suzuki, K.: Analysis of plasma membrane localization of CD69 molecule in human activated neutrophils. The 4th International Peroxidase Meeting 2004. October 27-30, Kyoto, JAPAN
- 138) Hasegawa, A., Murata, K., Suzuki, K., and Nakayama, T.: CD69-null mice protected from arthritis induced with anti-Type-II collagen antibodies. The 4th

- International Peroxidase Meeting 2004.
October 27-30, Kyoto, JAPAN
- 139) 長谷川明洋、村田薫、鈴木和男、中山俊憲
関節炎の発症における CD69 の役割 第 13
回バイオイメージング学会 2004 年 11 月
5-7 日、京都
- 140) Nakayama, T.: CD28 costimulation
controls histone hyperacetylation of the
IL-5 gene locus in developing Th2 cells.
Chromatin Structure & Function 2004.
November 16-19, Cancun, MEXICO
- 141) 本橋新一郎、石川亜紀、中山俊憲、谷口克、
藤澤武彦 活性化 NKT 細胞による肺癌免疫
療法-第 1 相試験 第 17 回日本バイオセラピ
ィ学会学術集会総会 2004 年 11 月 25-26
日、北九州
- 142) 藤猪英樹、中山俊憲、谷口克、竹森利忠
HIVnef 発現により誘導される成熟 T 細胞の
機能異常 第 34 回日本免疫学会総会・学術
集会 2004 年 12 月 1-3 日、札幌
- 143) 木村元子、細川裕之、岩村千秋、鈴木茜、
三木多香子、菅谷薫子、山下政克、中山俊憲
Schnurri-2 による Th2 細胞分化の調節 第
34 回日本免疫学会総会・学術集会 2004 年
12 月 1-3 日、札幌
- 144) 長谷川明洋、HOSSAIN Mohammad B.,
村田薫、三木多香子、木村元子、山下政克、
中山俊憲 Th1/Th2 細胞分化における加齢
の影響 第 34 回日本免疫学会総会・学術集
会 2004 年 12 月 1-3 日、札幌
- 145) 稲見真倫、稲見-兒子由紀子、天田由幸、
関信男、山下政克、中山俊憲 CD28 共刺激
による選択的な IL-5 遺伝子座のクロマチン
リモデリング調節 第 34 回日本免疫学会総
会・学術集会 2004 年 12 月 1-3 日、札幌
- 146) 細川裕之、木村元子、長谷川明洋、朝生
ひかり、山下政克、中山俊憲 哺乳類ポリコ
ーム群遺伝子 *bmi1* による Th2 細胞分化の調
節機構 第 34 回日本免疫学会総会・学術集
会 2004 年 12 月 1-3 日、札幌
- 147) 新中須亮、石井崇太郎、金子高明、平原
潔、則兼聡子、山下政克、中山俊憲 Th2
細胞分化に必要な GATA3 機能部位の同定
第 34 回日本免疫学会総会・学術集会 2004
年 12 月 1-3 日、札幌
- 148) 宮本健志、金子高明、山下政克、稲見真
倫、天田由幸、島田英昭、八幡浩、落合武徳、
中山俊憲 IL-10 遺伝子導入 CD4T 細胞移
入によるアロ皮膚移植における生着期間延
長効果 第 34 回日本免疫学会総会・学術集
会 2004 年 12 月 1-3 日、札幌
- 149) 小谷素子、尾高正朗、羽広克嘉、原泰志、
中山俊憲、谷口克、安部良 ConA 誘導性肝
炎の発症におけるマクロファージ遊走阻止
因子 (MIF) の役割 第 34 回日本免疫学会
総会・学術集会 2004 年 12 月 1-3 日、札幌
- 150) 橋本香保子、パンデラキスコニ、下田美
智子、佐藤美樹、新田あゆみ、中山俊憲、高
久洋 マウス lymphoid 系樹状細胞株におけ
る発現する免疫機能制御因子の同定に関す
る研究 第 34 回日本免疫学会総会・学術集
会 2004 年 12 月 1-3 日、札幌
- 151) 北島雅之、黒崎直子、中山俊憲、高久洋
昆虫病原性バキュロウィルスを用いたがん
マウスモデルにおける抗腫瘍免疫誘導評価
第 34 回日本免疫学会総会・学術集会 2004
年 12 月 1-3 日、札幌
- 152) 田中ゆり子、堀口茂俊、内田哲郎、櫻井
大樹、小林皇一、関直彦、中山俊憲、岡本美
孝 頭頸部癌放射線治療が末梢血 NKT 細胞
に及ぼす影響 第 34 回日本免疫学会総会・
学術集会 2004 年 12 月 1-3 日、札幌
- 153) 村山研、長尾朋和、長谷川明洋、大原関
利章、高橋啓、三浦典子、大野尚仁、南谷晴
之、新井孝夫、中山俊憲、鈴木和男 活性化
好中球における CD69 分子の血管炎への関
与 第 34 回日本免疫学会総会・学術集会
2004 年 12 月 1-3 日、札幌

- 154) 仲松正司、川上和義、仲宗根力、山本夏男、中山俊憲、谷口克、齋藤厚 好中球依存性肺炎球菌感染防御における iNKT 細胞の役割・IFN- γ の関与 第34回日本免疫学会総会・学術集会 2004年12月1-3日、札幌
- 155) 金城武士、川上和義、仲宗根力、中山俊憲、谷口克、齋藤厚 緑膿菌感染防御における V α 14⁺NKT 細胞の役割 第34回日本免疫学会総会・学術集会 2004年12月1-3日、札幌
- 156) 角川清和、増田喬子、中山俊憲、桂義元、河本宏 胸腺細胞の完全な T 系列への決定は TCR 遺伝子再構成開始時期に先行する 第34回日本免疫学会総会・学術集会 2004年12月1-3日、札幌
- 157) 勝本拓夫、木村元子、長谷川明洋、山下政克、中山俊憲 Natural killer (NK)細胞の NK1/NK2 細胞分化、サイトカイン産生調節機構に関する研究 第34回日本免疫学会総会・学術集会 2004年12月1-3日、札幌
- 158) 原田通成、清野研一郎、真柄久美子、石井保之、香城論、若尾宏、渡会浩志、中山俊憲、谷口克 BCG 投与による活性化 V α 14 NKT 細胞の IgE 産生抑制 第34回日本免疫学会総会・学術集会 2004年12月1-3日、札幌
- 159) 香城論、清野研一郎、原田通成、渡会浩志、若尾宏、内田哲郎、中山俊憲、谷口克 活性化NKT細胞による寛容誘導性樹状細胞の誘導 第34回日本免疫学会総会・学術集会 2004年12月1-3日、札幌
- 160) 石川亜紀、本橋新一郎、石川栄一、藤澤武彦、中山俊憲、谷口克 肺癌術後再発例ならびに進行期肺癌例患者に対する自家活性化NKT細胞による免疫細胞療法・第I相試験 第34回日本免疫学会総会・学術集会 2004年12月1-3日、札幌
- 161) 庄司豊隆、北島雅之、橋本香保子、黒崎直子、中山俊憲、高久洋 バキュロウィルスによる IFN- γ 産生細胞の解析 第34回日本免疫学会総会・学術集会 2004年12月1-3日、札幌
- 162) 中山俊憲、山下政克 T リンパ球の機能分化に伴う Th2 サイトカイン遺伝子座のクロマチンリモデリング 第27回日本分子生物学会年会 2004年12月8-11日、神戸
- 163) 木村元子、高木豪、石井俊輔、中山俊憲 Schunurri-2 による Th2 細胞分化の調節 第27回日本分子生物学会年会 2004年12月8-11日、神戸
- 164) 山下政克、中山俊憲 メモリー-Th2 細胞における Th2 サイトカイン産生能維持機構の解析 第27回日本分子生物学会年会 2004年12月8-11日、神戸
- 田之倉 優
- 165) 田之倉優 (2004) X線結晶構造解析からみるナノバイオテクノロジー. ナノバイオテクノロジーの最前線 出版記念講演会、東京.
- 166) 田之倉優 (2004) 食品機能成分の NMR による非破壊分析. フードフォーラムつくば ファイトケミカルズ分科会「先端分析技術による食品の解析」、つくば、茨城.
- 167) 明華、伊東孝祐、宮園健一、加藤有介、加茂昌之、工藤紀雄、湯本史明、澤野頼子、丸岡慎太郎、本江信子、永田宏次、田之倉優 (2004) 好熱菌 *Sulfolobus tokodaii* strain 7 由来 Thioredoxin (ST2123)の構造解析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 97、広島.
- 168) 丸岡慎太郎、工藤紀雄、李恩哲、河原林裕、田之倉優 (2004) 超好熱古細菌 *Pyrococcus horikoshii* OT3 由来酵素 Gln amidotransferase の立体構造解析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 98、広島.
- 169) 加茂昌之、工藤紀雄、李恩哲、本島浩之、田之倉優 (2004) *Thermus thermophilus*

- HB8 株由来 Peptide deformylase の結晶構造解析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 98、広島.
- 170) 菅沼恵未, 澤野頼子, 工藤紀雄, 加茂昌之, 丸岡慎太郎, 牧野司, 岡井公彦, 田之倉優 (2004) 超好熱古細菌 *Aeropyrum pernix* K-1 由来の Intracellular protease (APE0319) の構造解析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 98、広島.
- 171) 宮園健一, 工藤紀雄, 丸岡慎太郎, 田之倉優 (2004) 超好熱古細菌 *Pyrococcus horikoshii* OT3 由来アシルホスファターゼの構造および熱安定性の解析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 98、広島.
- 172) 筒井志穂, 李恩哲, 伊東孝祐, 井上由美子, 永田宏次, 田之倉優 (2004) *Thermus thermophilus* 由来カルボキシペプチダーゼ 1 の結晶構造解析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 117、広島.
- 173) 矢島洋介, 片山秀和, 田之倉優, 長澤寛道 (2004) 組換え体血糖上昇ホルモンの調製とコンフォメーション解析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 185、広島.
- 174) 胡芳宇, 降旗一夫, 石田三恵, 澤崎徹, 田之倉優 (2004) ^{31}P -NMR による牛乳成分の分析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 210、広島.
- 175) 本江信子, 永田宏次, 近藤恵二, 田之倉優 (2004) 甘味蛋白質モネリンの甘味活性部位に関する研究. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 227、広島.
- 176) 竹下大二郎, 善野修平, 西郷薫, 田之倉優 (2004) ヒト Pin domain の構造解析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 256、広島.
- 177) 岡井公彦, 工藤紀雄, 加茂昌之, 田之倉優 (2004) 好酸性好熱菌由来 flavin oxidoreductase の結晶構造解析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 256、広島.
- 178) 大城隆, 李恩哲, 真鍋正憲, 田之倉優, 和泉好計 (2004) 部位特異的変異による脱硫酵素 DszB の改変. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 256、広島.
- 179) 徐寧淳, 永田宏次, 南雄二, 田之倉優 (2004) NMR によるソテツ抗菌ペプチド Cy-AMP1 の立体構造解析. 日本農芸化学会 2004 年度大会講演要旨集 293、広島.
- 180) Yoshiyama, S., Nagata, K., Nakamura, A., Tanokura, M. and Kohama, K. (2004) Characterization of the smooth muscle relaxant extracted from *Physarum polycephalum*. *J. Pharmacol. Sci.* 94 Suppl. 1, 145P-145P.
- 181) Tanokura, M. (2004) Structural genomics on development and differentiation of organisms and replication and repair of DNA. The 1st Pacific-Rim International Conference on Protein Science 88, Yokohama.
- 182) Koh, J., Kong, K. and Tanokura, M. (2004) The cloning, expression and characterization of phenylacetic acid hydroxylase from a thermophilic archaeon *Pyrococcus horikoshii* OT3. Programs & Abstracts of The 1st Pacific-Rim International Conference on Protein Science 171, Yokohama.
- 183) Tsutsui, S., Lee, W. C., Ito, K., Inoue, Y., Nagata, K. and Tanokura, M. (2004) Crystal structure of carboxypeptidase 1 from *Thermus thermophilus*. Programs & Abstracts of The 1st Pacific-Rim International Conference on Protein Science 182, Yokohama.
- 184) Katayama, H., Ohira, T., Nagata, S., Nagata, K., Tanokura, M. and Nagasawa, H. (2004) Solution structure and structure-activity relationship of the crusta-

- cean molt-inhibiting hormone. Programs & Abstracts of The 1st Pacific-Rim International Conference on Protein Science 200, Yokohama.
- 185) Gritsenko, V., Tanaka, T., Ito, K., Kamo, M., Makino, T., Nakamura, A., Kohama, K. and Tanokura, M. (2004) Dimer in a new crystal form of CPB40, calcium-binding protein from *Physarum polycephalum*. Programs & Abstracts of The 1st Pacific-Rim International Conference on Protein Science 227, Yokohama.
- 186) Tanokura, M. (2004) Structural genomics on development and differentiation of organisms and replication and repair of DNA. 第2回日本ヒトプロテオーム学会講演要旨集 25、東京.
- 187) 田之倉優 (2004) ニトロ/フラビン還元酵素と発生・分化の構造生物学. 第23回ワークショップ: X線構造生物学の最前線、よこはま NMR 構造生物学研究会、横浜.
- 188) 田之倉優 (2004) 発生・分化と DNA の複製・修復の構造ゲノム科学. バイオウィーク in Sapporo 2004、札幌.
- 189) 筒井志穂, 李愚哲, 伊東孝祐, 加茂昌之, 井上由美子, 永田宏次, 田之倉優 (2004) *Thermus thermophilus* 由来のカルボキシペプチターゼ 1 の生化学的及び結晶学的解析. 理研セミナー 高度好熱菌丸ごと一匹プロジェクト第3回連携研究会要旨 85、兵庫.
- 190) 加茂昌之, 工藤紀雄, 李愚哲, 本島浩之, 田之倉優 (2004) *Thermus thermophilus* HB8 株由来 Peptide deformylase の結晶構造解析. 理研セミナー 高度好熱菌丸ごと一匹プロジェクト第3回連携研究会要旨 86、兵庫.
- 191) Kamo, M., Inouye, K. and Tanokura, M. (2004) 1.85 Å resolution structure of thermolysin in the presence of NaCl at high concentrations. Abstracts of the 8th Conference on Biology and Synchrotron Radiation 745、姫路.
- 192) Tsutsui, S., Lee, W. C., Ito, K., Kamo, M., Inoue, Y., Nagata, K. and Tanokura, M. (2004) Biochemical and crystallographic analyses of carboxypeptidase 1 from *Thermus thermophilus*. 第77回日本生化学会大会発表抄録集 761、横浜.
- 193) Sawano, Y., Hatano, K. and Tanokura, M. (2004) Mutational analysis of bromelain inhibitor from pineapple. 第77回日本生化学会大会発表抄録集 817、横浜.
- 194) Ishikawa, K., Watanabe, M., Kuroita, T., Uchiyama, I., Bujnicki, J M., Kawakami B., Tanokura, M. and Kobayashi, I. (2004) Characterization of a novel restriction endonuclease Pabl from hyperthermophilic archaea *Pyrococcus abyssi* which is associated with genome rearrangement. 第77回日本生化学会大会発表抄録集 989、横浜.
- 195) Nagata, K. and Tanokura, M. (2004) Cardioacceleratory peptide (CCAP) of the fruit fly *Drosophila melanogaster*: Solution structure analysis and docking simulation to the receptor CG6111. 1st Asia-Pacific International Peptide Symposium/ 41st Japanese Peptide Symposium 2004 P-1-085、福岡.
- 196) Sawano, Y., Hatano, K. and Tanokura, M. (2004) Characterization of the protease processing sites in a multidomain inhibitor precursor from *Ananas comosus*. 1st Asia-Pacific International Peptide Symposium/ 41st Japanese Peptide Symposium 2004 P-3-120、福岡.
- 197) 加藤有介, 永田宏次, 田之倉優 (2004) グループ II/III WW ドメイン相互作用機構

- 解析. 日本バイオイメーシング学会学術集
要旨集 97、京都.
- 198) 田之倉優 (2004) 発生・分化と DNA の複製・修復. タンパク 3000 プロジェクト第 3 回公開シンポジウム 38-41、大阪.
- 199) 田之倉優, 永田宏次, 西郷薫 (2004) 発生・分化と DNA の複製・修復に関するタンパク質の構造・機能解析. タンパク 3000 プロジェクト第 3 回公開シンポジウム 41、大阪.
- 200) 田之倉優 (2004) 高感度 ^{31}P NMR プロープの開発と生きた細胞への応用. 厚生労働科学研究費萌芽の先端医療医療技術推進研究事業 ナノメディシン分野「超極限分子プローブによる組織傷害の再生・治癒機構の解析と高精度局所診断技術の開発」研究報告会 ナノメディシン公開シンポジウム「ナノバイオイメーシングで切り開く先端的生体機能解析—血管炎と微小循環血流障害における分子生理機能を解き明かす—」抄録集、東京.
- 201) 田之倉優 (2004) 好熱菌由来タンパク質の結晶構造と耐熱性. 第 27 回日本分子生物学会年会プログラム・講演要旨集 42、神戸.
- 202) 石川健、渡部美紀、黒板敏弘、内山郁夫、Bujnicki, J. 川上文清、田之倉優、小林一三 (2004) 超好熱古細菌 *Pyrococcus* のゲノム情報に基づき *in vitro* で発現された新規制限酵素 Pabl. 第 27 回日本分子生物学会年会プログラム・講演要旨集 241、神戸.
- 203) 奈良雅之、湯本史明、永田宏次、田之倉優、鍵裕之、尾島孝男、西田清義 (2004) 赤外分光法によるアカザラガイトロポニン C 変異体(E142D)と金属イオンとの相互作用に関する研究. 第 42 回日本生物物理学会年会講演予稿集 S39、京都.
- 204) 村上健次、湯本史明、大木進野、安永卓生、田之倉優、若林健之 (2004) トロポニンのアクチン結合の構造的基盤. 第 42 回日本生物物理学会年会講演予稿集 S66、京都.
- 205) 湯本史明、廬群偉、永田宏次、森本幸生、田之倉優、大槻磐男 (2004) 拘束型心筋症原因トロポニン C の構造および機能解析. 第 42 回日本生物物理学会年会講演予稿集 S72、京都.
- 206) 湯本史明、田中啓之、廬群偉、尾島孝男、森本幸生、田之倉優、大槻磐男 (2005) 拘束型心筋症を引き起こすトロポニン I 変異体の構造・機能解析. 2005 年生体運動研究合同班会議プログラム 講演番号 53、大阪.
- 207) 村上健次、湯本史明、大木進野、安永卓生、田之倉優、若林健之 (2005) トロポニン・アクチン結合部位でのカルシウム制御の機構. 2005 年生体運動研究合同班会議プログラム 講演番号 60、大阪.
- 208) Tanokura, M. (2005) The proton structure of reduced flavin in azoreductase AzoR deduced from the X-ray crystal structure. Program of Summary International Workshop “Hydrogen and Hydration in Proteins and Nucleic Acids”, The University of Tokyo, Tokyo.
- 村松知成
- 209) 西井亘、鈴木太一郎、村松知成、高橋健治: ATP 依存性プロテアーゼ Lon によるリボソーム蛋白質 S2 の分解機構、第 77 回日本生化学会大会、示説、2004 年 10 月
- 松村英夫
- 210) 松村英夫: 複合微粒子マグネット・リボソームとエレクトロ・パーミエーション、第 10 回油化学つくば交流会 (2004. 4)
- 211) 松村英夫: リン脂質リボソーム膜のエレクトロ・パーミエーション、第 56 回コロイドおよび界面化学討論会 (2004. 9)
- 212) 古澤邦夫、松村英夫: 複合粒子の生成とコロイドの動電現象、第 56 回コロイドおよび界面化学討論会 (2004. 9)

山本健二

- 213) 山本健二、星野昭芳、藤岡宏樹：量子ドットによる Cell Delivery System および Drug Delivery System の開発ー細胞機能を見る、測る、解析する技術の開発と蛍光プローブも創薬への応用ー ヒューマンサイエンス振興財団、メルパルク東京 (2004.3)
- 214) 山本健二：水溶液中のナノ粒子のランダム性と自己組織化について 第 53 回理論応用力学後援会 (NCTAM2004)、日本学術会議 (2004.1)

霜田幸雄

- 215) 霜田幸雄：Glutamate responses of the retinal neurons recording with voltage sensitive dye、第 27 回日本神経科学大会 Neuro2004 (2004)
- 216) 霜田幸雄、長坂安彦、重松康秀：半導体蛍光色素 Q-dot のフローサイトへの応用、日本バイオイメージング学会 第 13 回学術集会 (2004)
- 217) 霜田幸雄、桑原三佳子：脊椎動物の網膜神経細胞における GABA (γ -アミノ酪酸) に対する応答ー膜電位感受性色素による計測ー、日本バイオイメージング学会 第 13 回学術集会 (2004)
- 218) 矢澤徹、田中克典、林一樹、霜田幸雄、勝山智男：状態空間イメージ法をもちいた自由行動ザリガニ心筋活動電流の温度依存性の研究、日本バイオイメージング学会 第 13 回学術集会 (2004)

鈴木弘美

- 219) 鈴木弘美、小野健治、澤田 誠(2004) 脳・神経系に特異的な細胞浸潤のイメージング、第 31 回東海遺伝医療・再生医療研究会・名古屋, 7, Feb.

220) 小野健治、吉原 賢、鈴木弘美、澤田 誠 (2004) 骨髄移植初期に脳内へ移行する細胞の性質に関する解析、第 31 回東海遺伝子・再生医療研究会、・名古屋・7, Feb

221) 外山 宏、鈴木弘美、澤田 誠、旗野健太郎、加藤隆司、伊藤健吾(2004) ラット脳における ^{11}C -PK11195 と動物用 PET による活性型ミクログリア画像化の試み 日本核医学会第 58 回中部地方会・名古屋, 21, Feb.

222) 澤田 誠、鈴木弘美(2004) ミクログリアの脳保護作用と毒性転換.生体防御機能異常ワークショップ・2004 第 7 回肝臓生物学研究会合同大会・沖縄, 17-18, June.

223) 小野健治、鈴木弘美、澤田 誠 (2004) 骨髄移植後初期に脳内へ移行する未分化骨髄細胞の性質に関する解析、第 27 回日本神経科学大会・第 47 回日本神経化学会大会合同大会 (Neuro2004)・大阪, .

224) 今井文博、鈴木弘美、二宮 敬、澤田 誠 (2004) 脳親和細胞を用いた脳虚血性疾患に対する細胞治療の開発・名古屋, 6-8, Oct.

225) 外山 宏、工藤 元、旗野健太郎、鈴木弘美、小野健治、澤田 誠、加藤隆司、伊藤健吾(2004)ラット脳における ^{11}C -PK11195 と動物用 PET による活性型ミクログリア画像化の試み、第 44 回日本核医学会総会、京都, 4-6, Nov.

226) 鈴木弘美、小野健治、澤田 誠、外山 宏、工藤 元、旗野健太郎、加藤隆司、伊藤健吾 (2004) 活性型ミクログリアの In Vivo イメージング、第 13 回バイオイメージング学会、京都, 6-7, Nov.

塚田孝祐

- 227) Tsukada K., Suganuma K., Yonetani T., Suematsu M.: T-state stabilization of hemoglobin allostery: A potential therapeutic

tic stratagem for post-ischemic organ microvascular damages, 6th Asian Congress for Microcirculation, 2005-2, (Tokyo)

228) 塚田孝祐, 末松 誠, 南谷晴之: 脳局所微小循環レベルにおける酸素代謝の光学的解析法, 第 11 回日本血液代替物学会年次大会, 2004-7 (札幌)

229) 塚田孝祐, 菅沼和弘, 米谷 隆, 南谷晴之, 末松 誠: α -NO ヘモグロビン含有赤血球の出血性ショックに対する微小循環改善効果, ナノメディシン公開シンポジウム, 2004-12 (東京)

朽津和幸

230) Kuchitsu, K. (2004) Roles of Ca^{2+} channels in defense signaling. NIAS-COE/PROBRAIN/ TOKUTEI/ Joint *International Symposium on Plant Immunity* -signalings to acquired resistance- 国際シンポジウム「植物免疫・抵抗性獲得への情報伝達」 p. 22 2004.3 つくば

231) 森下あい子, 新川玲子, 豊増孝之, 朽津和幸, 石川雅也 イネ懸濁培養細胞における ABA による耐凍性誘導のプロテオミクス解析 NIAS シンポジウム「植物プロテオーム研究の最前線 (Frontier in Plant Proteome Research)」 つくば 2004.3

232) 朽津和幸 植物のストレス応答における膜電位依存性カルシウムチャンネルの生理機能 植物生体膜シンポジウム 東京大学 2004.3

233) 桧垣匠, 郷達明, 東克己, 朽津和幸 タバコ培養細胞 BY-2 のエリシター誘導性プログラム細胞死過程における液胞の動態の解析 日本植物生理学会 東京都立大学 2004.3

234) 来須孝光, 矢柄寿一, 宮尾安藝雄, 廣近洋彦, 朽津和幸 イネのエリシターシグナ

ル伝達に関する電位依存性 Ca^{2+} の同定と機能解析 日本植物生理学会 講演要旨 p. 136 東京都立大学 2004.3.

235) 朽津和幸, 櫻井博康, 小笠原よう子, 来須孝光, 門田康弘, 中川祐子, 山中拓哉, 片桐健, 篠崎一雄, 飯田和子, 飯田秀利 イネ・タバコの Ca^{2+} 透過性伸展活性化陽イオンチャンネル候補遺伝子の単離と機能解析 日本植物生理学会 東京都立大学 2004.3

236) 朽津和幸 植物の膜電位依存性 Ca^{2+} チャンネルの生理機能と進化 基礎生物学研究所形質統御実験施設ワークショップ ヒメツリガネゴケの生物学 岡崎 2004.6.

237) 中星明日美, 朽津和幸 ヒメツリガネゴケの膜電位依存性 Ca^{2+} チャンネル同定と機能解析 基礎生物学研究所形質統御実験施設ワークショップ ヒメツリガネゴケの生物学 岡崎 2004.6.

238) 鈴木 七緒, 奈良 雅之, 湯本 史明, 加藤有介, 永田 宏次, 大橋 祐子, 朽津和幸, 坂本章, 田之倉 優 赤外分光法によるタバコ由来カルモジュリンの Ca^{2+} 結合に関する研究 第 31 回生体分子科学討論会 茨城大学 2004.7

239) Kuchitsu, K., Kurusu, T., Kadota, Y. (2004) Identification of putative voltage-dependent Ca^{2+} permeable channels playing a key role in elicitor-induced programmed cell death in plants. International Workshop on Plant Membrane Biology, Agro Montpellier, Montpellier, France 2004.7

240) 門田康弘, 藤井伸介, 渡邊崇, 東克己, 武藤尚志, 朽津和幸 感染防御シグナル伝達系の細胞周期依存性 植物細胞周期シンポジウム 南熱海 2004.7

241) 大野良子, 内宮博文, 朽津和幸, 梅田正明 シロイヌナズナの CDK 活性を制御するキナーゼ群の機能解析 植物細胞周期シン

- ポジウム 南熱海 2004.7
- 242) 朽津和幸、来須孝光、門田康弘 植物のストレス応答シグナル伝達に関する Ca^{2+} チャンネルの同定と機能解析 日本植物細胞分子生物学会 秋田県立大学 2004.8
- 243) 中川陽子、門田康弘、桧垣匠、東克己、武藤尚志、朽津和幸 サリチル酸によるタバコ培養細胞 BY-2 のエリシター応答性の制御 日本植物学会第 68 回大会 日本大学湘南 2004.9
- 244) 朽津和幸、門田康弘、来須孝光 エリシターシグナル伝達に関するカルシウムチャンネルの同定と機能解析 日本植物学会第 68 回大会 日本大学湘南 2004.9
- 245) 朽津和幸、来須孝光、古市卓也、武藤尚志、門田康弘 Identification of putative voltage-dependent Ca^{2+} permeable channels playing a key role in elicitor-induced defense responses and programmed cell death in tobacco BY-2 cells. International workshop "Cell and Molecular Biology of Tobacco BY-2 cells" 理化学研究所横浜 2004.9
- 246) 門田康弘、渡辺崇、藤井伸介、東克己、佐野俊夫、長田敏行、馳澤盛一郎、朽津和幸 Crosstalk between elicitor-induced cell death and cell cycle regulation in tobacco BY-2 cells. International workshop "Cell and Molecular Biology of Tobacco BY-2 cells" 理化学研究所横浜 2004.9
- 247) 東 克己、高澤 涼子、吉森 篤史、郷達明、田沼 靖一、朽津 和幸 植物、動物、菌類に存在する inhibitor of apoptosis protein の新規パラログはヒト培養細胞のアポトーシスを抑制する 第 77 回日本生化学会大会 ワークショップ「植物の情報伝達」パシフィコ横浜 2004.10
- 248) 東克己、高澤涼子、吉森篤史、郷達明、田沼靖一、朽津和幸 Novel putative paralogs of inhibitor of apoptosis protein present in plants, fungi and animals inhibit apoptosis in human cells. 第 77 回日本生化学会大会 パシフィコ横浜 2004.10
- 249) 賀屋 秀隆、東 克己、二瓶 晋、高澤 涼子、田沼 靖一、朽津 和幸 (2004) 比較ゲノム解析により見出された動植物の新奇プログラム細胞死関連因子の機能解析 「植物・病原微生物」若手研究会 KKR 江ノ島 2004.10
- 250) 新井 修、濱本 宏、朽津 和幸 (2004) タンパク質性エリシターにより誘導されるタバコ実生の細胞死過程における細胞質カルシウムイオン動態の解析 「植物・病原微生物」若手研究会 KKR 江ノ島 2004.10
- 251) 中川陽子、門田康弘、桧垣匠、東克己、武藤尚志、朽津和幸 (2004) サリチル酸によるタバコ培養細胞 BY-2 のエリシター応答性の制御 「植物・病原微生物」若手研究会 KKR 江ノ島 2004.10
- 252) Kuchitsu, K., Kurusu, T., Kadota, Y. (2004) Identification of putative voltage-dependent Ca^{2+} permeable channels playing a key role in elicitor-induced programmed cell death in plants. The 6th International Symposium on Plant Responses to Air Pollution and Global Changes: from Molecular Biology to Plant Production and Ecosystem. つくば 2004.10
- 253) 朽津和幸 (2004) 植物の生体防御シグナル伝達系におけるカルシウムイオンの役割と細胞死・細胞周期のクロストーク 京都大学宇治 2004.10
- 254) Kuchitsu, K., Kadota, K., Kurusu, T., Ogasawara, Y. (2004) Roles of NADPH oxidase, voltage-gated Ca^{2+} channel and the cell cycle in "programmed" cell death

- and innate immunity in plants. 4th International Peroxidase Meeting joint with 10th Myeloperoxidase Meeting. 京都 2004.10
- 255) Kuchitsu, K., Kadota, K., Kurusu, T., Ogasawara, Y. (2004) Roles of voltage-gated Ca^{2+} channel and cell cycle regulatory machinery in programmed cell death and innate immunity in plants. 4th International Peroxidase Meeting joint with 10th Myeloperoxidase Meeting. 京都 2004.10
- 256) Ogasawara, Y., Kadota, Y., Hiraoka, G., Yamagoe, S., Suzuki, K., Kuchitsu, K. (2004) Synergistic activation of a plant NADPH oxidase by Ca^{2+} and protein phosphorylation. 4th International Peroxidase Meeting joint with 10th Myeloperoxidase Meeting. 京都 2004.10
- 257) 北畑信隆, 藤原誠, 朽津和幸, 吉田茂男, 浅見忠男 (2004) アブシシン酸内生量の変動を指標とした受容体型リン酸化酵素変異体の追究 日本植物化学調節学会第 39 回大会 秋田県立大学 2004.10
- 258) 朽津和幸 (2004) 植物の生体防御シグナル伝達系におけるカルシウムイオンの役割と細胞死・細胞周期のクロストーク 第 10 回北海道大学 Plant Science Seminar 北海道大学 2004.11
- 259) 朽津和幸 (2004) エリシター誘導性過敏細胞死の情報伝達と細胞周期制御機構の解析 公開シンポジウム「植物・病原微生物の分子応答機構の解明・耐病性作物の創出に向けて」 北海道大学 2004.11
- 260) 朽津和幸, 来須孝光, 濱田淳平, 門田康弘 (2004) 植物の感染防御応答シグナル伝達に関する Ca^{2+} の同定と細胞膜における局在性の解析 第 13 回日本バイオイメーjing学会学術集会 京都府立医科大学 2004.11
- 261) 青木優和, 山崎大樹, 星野航, 吉田茂男, 浅見忠男, 朽津和幸 (2004) イメーjing法による植物のストレスホルモン(アブシジン酸)受容部位の特性解析 第 13 回日本バイオイメーjing学会学術集会 京都府立医科大学 2004.11
- 262) 朽津和幸 イネのシグナル伝達系に関する膜電位依存性カルシウムチャンネルの単離と機能解析 公開シンポジウム「21 世紀に期待される植物科学研究」東京 2004.12
- 263) 朽津和幸, 来須孝光, 門田康弘 植物の環境ストレスの認識と応答に関するカルシウムチャンネルの同定と機能解析 東京理科大学総合研究所第 3 回シンポジウム 東京理科大学野田 2004.12
- 264) 大野良子, 門田康弘, 朽津和幸 植物の環境ストレス応答と細胞周期制御機構の関係 東京理科大学総合研究所 環境・エネルギー研究部門第 3 回シンポジウム 東京理科大学野田 2004.12
- 265) 朽津和幸 ストレス応答・細胞死情報伝達過程のバイオイメーjing 厚生労働科学研究費 萌芽的先端医療技術推進研究事業 ナノメディシン分野研究報告会 ナノメディシン公開シンポジウム「ナノバイオイメーjingで切り開く先端的生体機能解析—血管炎と微小循環血流障害における分子生理機能を解き明かす—」 国立国際医療センター (東京) 2004.12
- 266) 朽津和幸 動植物のプログラム細胞死の比較ゲノム科学的解析に基づく、新規アポトーシス制御因子の探索 2004.12.15 東京理科大学ゲノム創薬研究センター公開シンポジウム「ゲノム創薬のフロンティアを探る」 東京理科大学野田 2004.12
- 267) 来須孝光, 朽津和幸 植物の感染防御応答シグナル伝達とカルシウムチャンネル 日本植物生理学会若手セミナー2005.3 新潟

- 268) 東克己、高澤涼子、賀屋秀隆、二瓶晋、田沼靖一、朽津和幸 植物における apoptosis 関連遺伝子の探索と機能解析 日本植物生理学会大会 2005.3 新潟
- 269) 小笠原よう子、平岡吾朗、山越智、鈴木和男、朽津和幸 活性酸素発生に関与する NADPH oxidase は Ca^{2+} の結合とリン酸化により相乗的に活性化される 日本植物生理学会大会 2005.3 新潟
- 270) 朽津和幸、来須孝光、中星明日美、門田康弘 膜電位依存性 Ca^{2+} チャンネル TPC1 ファミリーの分布と生理機能 日本植物生理学会大会 2005.3 新潟
- 271) 大野良子、門田康弘、藤井伸介、朽津和幸 エリシター誘導性プログラム細胞死の細胞周期による調節 日本植物生理学会大会 2005.3 新潟
- 272) 斉藤涼子、福田直子、大宮あけみ、伊藤佳央、小関良宏、朽津和幸、中山真義 ペクチニアの覆輪形成に関与するフラボノイド系色素の生合成制御 2005.3 新潟
- 平成 15 年度
南谷晴之
- 273) Minamitani H., Hase K., Tsukada K. : Optical fiber sensor based on phosphorescence quenching for measurement of blood oxygen pressure and fluorescence detection of blood flow, *Proc. Int. Sensors Conf.*, pp138-139, 2003 (Daegu, Korea)
- 274) Arai T., Tsukada K., Sekizuka E., Oshio C., Terao S., Hase K., Minamitani H.: RBC flow imaging and pO₂ measurement in cerebral microcirculation: Effect of hemodilution on oxygen supply to brain cortical arterioles, *Proc. IEEE EMBC 2003*, pp1054-1057, 2003-9 (Cancun, Mexico).
- 275) 南谷晴之: 超極限分子プローブによる組織障害の再生治癒機構の解析と高精度局所診断技術の開発、日本バイオイメーキング学会公開シンポジウム「バイオイメーキングとナノテクノロジー」要旨集、pp76-77、2003-2 (東京)
- 276) 塚田孝祐、関塚永一、大塩力、南谷晴之、辻岡克彦: 脳虚血における微小循環血流と局所酸素代謝の可視化解析、厚生労働科研公開シンポジウム(バイオイメーキングとナノテクノロジー)、要旨集 92-93、東京、2003/2
- 277) 関塚永一、大塩力、南谷晴之: 糖尿病性血管障害のイメージング診断と治療への応用、厚生労働科研公開シンポジウム(バイオイメーキングとナノテクノロジー)、要旨集 74-75、東京、2003/2
- 278) 新井達也、塚田孝祐、長谷憲多朗、南谷晴之: 血液希釈時の脳微小循環領域における血流増加と酸素供給に関する研究、厚生労働科研公開シンポジウム(バイオイメーキングとナノテクノロジー)、要旨集 94-95、東京、2003/2
- 279) 長尾朋和、越尾修、馬淵綾子、大野尚仁、高橋啓、南谷晴之、鈴木和男: 免疫異常による腎微小血管傷害のイメージング、厚生労働科研公開シンポジウム(バイオイメーキングとナノテクノロジー)、要旨集 104-105、東京、2003/2
- 280) 高橋未帆、長尾朋和、松崎和喜、南谷晴之: 光線力学的治療における血流遮断機構の解析—光化学反応によって誘起される内皮細胞傷害と血栓形成、厚生労働科研公開シンポジウム(バイオイメーキングとナノテクノロジー)、要旨集 106-107、東京、2003/2
- 281) 渋谷典子、長尾朋和、高橋未帆、松崎和喜、南谷晴之: 腫瘍血管における光線力学的治療施行時の血流動態の研究、厚生労働科研公開シンポジウム(バイオイメーキングとナノテクノロジー)、要旨集 108-109、東京、2003/2
- 282) 守屋智子、長尾朋和、松崎和喜、高橋未

- 帆, 南谷晴之: 光化学反応によるアポトーシス誘導におけるデスレプターの検討, 厚生労働科研公開シンポジウム(バイオイメージングとナノテクノロジー), 要旨集 110-111, 東京, 2003/2
- 283) 南谷晴之: ナノプローブとバイオイメージング技術を用いた微小循環障害の機構解析, 第 28 回日本微小循環学会総会, 41, 東京, 2003/2
- 284) 岡崎絵里奈, 塚田孝祐, 中橋浩康, 関塚永一, 大塩力, 南谷晴之: 原子間力顕微鏡による赤血球ゴーストの弾性解析, 第 28 回日本微小循環学会総会, 61, 東京, 2003/2
- 285) 広瀬耕徳, 関塚永一, 大塩力, 小澤正, 中橋浩康, 南谷晴之: 糖尿病患者の血小板機能亢進における GPIIb/IIIa の関与, 第 28 回日本微小循環学会総会, 62, 東京, 2003/2
- 286) 新井達也, 塚田孝祐, 関塚永一, 大塩力, 寺尾聡, 長谷憲多朗, 南谷晴之: 血液希釈時の脳微小循環細動脈の血行動態・酸素分圧計測, 第 28 回日本微小循環学会総会, 68, 東京, 2003/2
- 287) 中橋浩康, 関塚永一, 大塩力, 小澤正, 広瀬耕徳, 南谷晴之, 森下鉄夫: 糖尿病状態下における血管内皮細胞と血小板との相互作用の検討, 第 28 回日本微小循環学会総会, 82, 東京, 2003/2
- 288) 高橋未帆, 渋谷典子, 松崎和喜, 長尾朋和, 南谷晴之: 光化学反応による内皮細胞の細胞骨格変化および抗血栓機能障害, 第 42 回日本エム・イー学会大会, pp204, 2003-6 (札幌)
- 289) 守屋智子, 松崎和喜, 高橋未帆, 長尾朋和, 南谷晴之: 光化学反応によるアポトーシス誘導過程における Ca^{2+} と Fas 機能の解析, 第 42 回日本エム・イー学会大会, pp205, 2003-6 (札幌)
- 290) 塚田孝祐, 畑野瑞恵, 山根正信, 南谷晴之, 辻岡克彦: 脳虚血における微小循環血流と酸素代謝の非接触連続計測法, 第 42 回日本エム・イー学会大会, pp289, 2003-6 (札幌)
- 291) 中橋浩康, 関塚永一, 大塩力, 小澤正, 広瀬耕徳, 南谷晴之: レーザ散乱粒子計測に基づく糖尿病血小板凝集能の測定, 第 42 回日本エム・イー学会大会, pp291, 2003-6 (札幌)
- 292) 南谷晴之, 塚田孝祐, 関塚永一, 大塩力: 臓器血流と酸素代謝の光・イメージング解析, 公開シンポジウム「ナノとバイオの融合 学理構築, 産業基盤形成」, pp91-96, 2003-9 (仙台)
- 293) 塚田孝祐, 南谷晴之, 辻岡克彦: 脳皮質酸素代謝の可視化解析, 一軟膜微小循環血流と局所酸素分圧および NADH 蛍光計測からの検討一, 第 18 回生体・生理工学シンポジウム, pp381-382, 2003-10 (新潟)
- 294) 塚田孝祐, 南谷晴之, 辻岡克彦: 蛍光と燐光を利用した脳微小循環血流と酸素代謝の可視化解析, 第 17 回日本エム・イー学会秋季大会専門別研究会, pp95, 2003-10 (京都)
- 295) 関塚永一, 中橋浩康, 広瀬耕徳, 後閑治彦, 南谷晴之, 大塩力: 目で見る血液の流れー血液はさらさらと流れるだろうかー糖尿病における血管障害メカニズム, 日本バイオイメージング学会公開シンポジウム「ナノバイオロジーをイメージングする」要旨集, ppS3-S6, 2003-10 (横浜)
- 296) 塚田孝祐, 関塚永一, 大塩力, 南谷晴之, 辻岡克彦: 軟膜微小循環血流と局所酸素分圧および NADH 蛍光計測による脳皮質酸素代謝の可視化解析, 第 12 回日本バイオイメージング学会学術集会, pp217-218, 2003-10 (横浜)
- 297) 渋谷典子, 高橋未帆, 松崎和喜, 長尾朋和, 南谷晴之: 光化学反応による血栓形成過程における白血球と内皮細胞の相互作用, 第

- 12 回日本バイオイメージング学会学術集会, pp253-254, 2003-10 (横浜)
- 298) 寺尾聰、関塚永一、石川真実、山口則之、南谷晴之、河瀬武：異なる蛍光色素により色分け標識した血小板と白血球の観察－mouse cranial window と 3 CCD カメラ装着生体顕微鏡を用いて－、第 12 回日本バイオイメージング学会学術集会, pp257-258, 2003-10 (横浜)
- 299) 新井達也、高橋亮太、塚田孝祐、石川真実、関塚永一、大塩力、南谷晴之：血液希釈による脳血流増加の酸素供給に与える影響、第 12 回日本バイオイメージング学会学術集会, pp261-262, 2003-10 (横浜)
- 300) 広瀬耕徳、関塚永一、大塩力、中楯浩康、後閑治彦、南谷晴之：光化学反応を用いた糖尿病における易血栓形成性の検討、第 12 回日本バイオイメージング学会学術集会, pp263-264, 2003-10 (横浜)
- 301) 後閑治彦、関塚永一、大塩力、中楯浩康、広瀬耕徳、南谷晴之：糖尿病状態下における血管内皮細胞と血小板との相互作用の検討、第 12 回日本バイオイメージング学会学術集会, pp265-266, 2003-10 (横浜)
- 302) 長尾朋和、長谷川明洋、越尾修、馬淵綾子、南谷晴之、中山俊憲、鈴木和男：活性酸素誘導の血小板血栓形成における CD69 の役割、第 12 回日本バイオイメージング学会学術集会, pp291-292, 2003-10 (横浜)
- 303) 守屋智子、松崎和喜、高橋未帆、長尾朋和、南谷晴之：光化学反応による Ca^{2+} 濃度変化とアポトーシス誘導のイメージング解析、第 12 回日本バイオイメージング学会学術集会, pp303-304, 2003-10 (横浜)
- 304) 関塚永一、中楯浩康、広瀬耕徳、後閑治彦、南谷晴之、大塩力：血液の流れから見る糖尿病における血管障害メカニズム、第 10 回日本ヘモレオロジー学会, pp16-18, 2003-11 (神戸)
- 305) 中楯浩康、関塚永一、大塩力、広瀬耕徳、後閑治彦、南谷晴之：糖尿病状態下における AGE と活性酸素の血小板粘着への影響、第 10 回日本ヘモレオロジー学会, pp51, 2003-11 (神戸)
- 306) 広瀬耕徳、関塚永一、大塩力、中楯浩康、後閑治彦、南谷晴之：糖尿病における血小板 GP IIb/IIIa 活性についての検討、第 10 回日本ヘモレオロジー学会, pp52, 2003-11 (神戸)
- 307) 後閑治彦、関塚永一、大塩力、中楯浩康、広瀬耕徳、南谷晴之：糖尿病における血小板凝集能亢進に対する BPS の抑制効果、第 10 回日本ヘモレオロジー学会, pp53, 2003-11 (神戸)
- 308) 長尾朋和、長谷川明洋、馬淵綾子、越尾修、南谷晴之、中山俊憲、鈴木和男：活性酸素誘導性の血小板血栓形成における CD69 の役割、日本免疫学会総会・学術集会記録、33, pp237, 2003-12 (福岡)
- 鈴木和男
- 309) Suzuki, K.: Role of activated neutrophils in vasculitis development: in-vivo imaging. *Seminar in the Department of Biochemistry*, New York City, USA.
- 310) Aratani, Y., Kura, F., Watanabe, H., Akagawa, H., Takano, Y., Suzuki, K., Dinauer, M.C., Maeda, N., and Koyama, H.: Critical role of myeloperoxidase and nicotianamide adenine dinucleotide phosphate oxidase in high-burden systemic infection of mice with *Candida albicans*. *Gordon Research Conferences*, June 2003, New London, USA.
- 311) Kazuo Suzuki: Role of activated neutrophils in vasculitis development. *Gordon Research Conferences*, June, 2003, New

- London, USA.
- 312) Nagao, T., Koshio, O., Mabuchi, A., Ohno, N., Takahashi, K., Minamitani, H., Suzuki, K.: Imaging of renal microvascular injury induced by immune abnormality. *Gordon Research Conferences*, June, 2003, New London, USA.
- 313) Koshio, O., Nagao, T., Ishida-Okawara, A., Mabuchi, A., Suzuki, K.: The contribution of PMN and the degranulated substances to the activation of p38 MAPK and Caspase 8 in the introduction of Apoptosis of human endothelial cell. *Gordon Research Conferences*, June, 2003, New London, USA.
- 314) Kazuo Suzuki: Role of activated neutrophils in vasculitis development: in-vivo imaging. *Seminar in Marine Biological Laboratories*, Woods Hole, USA
- 315) Kazuo Suzuki: In-vivo Imaging of Vasculitis. *International Symposium Sponsored by Center of Excellence for Advanced Life Science on the Base of Bioscience and Nanotechnology*, July. 2003. Sapporo
- 316) Manger, B., Suzuki, K.: Chair Talk: The Use of IVIG in Collagen Vascular Diseases, Vasculitis and Atherosclerosis. *5th International Symposium on IVIG- ntravenous Immunoglobulins in the Third Millenium*, September, 2003, Interlaken, Switzerland.
- 317) Ito-Ihara, T., Suzuki, K., Ono, T., Nogaki, F., Suyama, K., Kita, T., Muso, E.: Beneficial effect of intravenous immunoglobulin for patients with myeloperoxidase-antineutrophil cytoplasmic antibody (MPO-ANCA)-associated rapidly progressive glomerulonephritis. *5th International Symposium on IVIG- ntravenous Immunoglobulins in the Third Millenium*, Sep. 2003, Interlaken, Switzerland.
- 318) Suzuki, K.: Cytokine levels in the development of vasculitis in human and mice. *Seminar in Addenbrookes Hospital*. 2004, Jan, 2004, Cambridge, UK.
- 319) Suzuki, K.: Contribution of MPO and neutrophil activation to vasculitis development in vivo and in vitro. *Seminar in Department Medicine-2004*, Feb , 2004, San Antonio, USA.
- 320) Suzuki, K.: Contribution of MPO and neutrophil activation to vasculitis development in vivo and in vitro. *Seminar in Inflammation Group-2004*, Feb , 2004, Iowa, USA.
- 321)猪原登志子、小野孝彦、野垣文昭、北徹、鈴木和男、武曾恵理：ANCA 関連腎炎・血管炎に対するヒト免疫グロブリン(IVIg) 治療効果の検討. 第 46 回日本腎臓病学会学術総会、平成 15 年 5 月、東京.
- 322)鈴木和男:血管炎の研究がめざす新たな展開：特に ANCA 関連血管炎. 第 5 回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ 2003、第 6 回肝臓生物学研究会合同年会、平成 15 年 7 月、札幌.
- 323)高橋啓、大原関利章、鈴木和男、直江史郎：マウス系統的血管炎誘発モデルにおける動脈病変の免疫組織学的検討. 第 5 回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ 2003、第 6 回肝臓生物学研究会合同年会、平成 15 年 7 月、札幌.
- 324)武曾恵理、猪原登志子、小野孝彦、野垣文昭、北徹、鈴木和男：ANCA 関連腎炎・血管炎に対するヒト免疫グロブリン (IVIg) 治療効果の検討. 第 5 回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ 2003、第 6 回肝臓生物学研究会合同年会、

- 平成15年7月、札幌。
- 325)原田敏江,三浦典子,安達禎之,鈴木和男,大野尚仁:真菌多糖の *in vitro* における IFN- γ 産生増強作用の検討. 第5回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ2003、第6回肝臓生物学研究会合同年会、平成15年7月、札幌。
- 326)長谷川明洋、長尾朋和、村田 薫、稲見真倫、鈴木和男、中山俊憲:関節炎および血管炎の発症における CD69 分子の役割. 第5回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ2003、第6回肝臓生物学研究会合同年会、平成15年7月、札幌。
- 327)越尾修、長尾朋和、石田・大川原明子、馬淵綾子、鈴木和男:血管炎への好中球の関与と炎症性サイトカインによるヒト血管内皮細胞のアポトーシス誘導シグナルの検討. 第5回オステオポンチン研究会、生体防御機能異常ワークショップ2003、第6回肝臓生物学研究会合同年会、平成15年7月、札幌。
- 328)鈴木和男:レビュートーク:血管炎に関するインターフェロン γ . 第68回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会、平成15年7月、東京。
- 329)三浦典子、新郷裕子、大原関利章、高橋 啓、直江史郎、大川原明子、鈴木和男、大野尚仁:Candida albicans 由来可溶性菌体外多糖 CAWS の血管炎誘発活性. 第68回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会、平成15年7月、東京。
- 330)原田敏江、三浦典子、安達禎之、栗原和記、Keiko Ozato、鈴木和男、大野尚仁:真菌多糖の樹状細胞分化の調節におよぼす影響—IRF-8 欠損マウスの解析から—. 第68回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会、平成15年7月、東京。
- 331)越尾修、長尾朋和、石田・大川原明子、馬淵綾子、鈴木和男:血管炎に関する TNF α および IL-1 β によるヒト血管内皮細胞のアポトーシス誘導シグナルの検討. 第68回日本インターフェロン・サイトカイン学会学術集会、平成15年7月、東京。
- 332)鈴木和男、大川原明子、長尾朋和、村山研、亀岡洋祐、大原関利章、高橋 啓、直江史郎、大野尚仁、三浦典子、武曾恵理、猪原登志子、小野孝彦:血管炎発症における活性化好中球の関与. 第14回日本生体防御学会、平成15年7月、京都。
- 333)鈴木和男、松岡俊行、栗原和記、佐々木健夫、Keiko Ozato:血管炎に関与する異常好中球:IRF-8 ノックアウトマウスによる解析. 第14回日本生体防御学会、平成15年7月、京都。
- 334)鈴木和男、大川原明子、長尾朋和、村山 研、亀岡洋祐、大原関利章、高橋 啓、直江史郎、大野尚仁、三浦典子、武曾恵理、猪原登志子、小野孝彦:血管炎発症における活性化好中球の関与. 第14回日本生体防御学会、平成15年7月、京都。
- 335)鈴木和男、南谷晴之、山本健二、眞島利和:公開シンポジウム「ナノとバイオの融合 学理構築、産業基盤形成」開催から学ぶ. 日本バイオイメージング学会と化学工学会の連携による「ナノとバイオの融合学理構築、産業基盤形成」シンポジウム、平成15年、9月、松島。
- 336)鈴木和男、長尾朋和、長谷川明洋、中山俊憲、大野尚仁、三浦典子、越尾 修、馬淵綾子、南谷晴之:新しいイメージング技術へ向けて—IVI 技術 (in-vivo imaging) —. 日本バイオイメージング学会と化学工学会の連携による「ナノとバイオの融合学理構築、産業基盤形成」シンポジウム、平成15年、9月、松島。
- 337)大川原明子、猪原登志子、武曾恵理、小野孝彦、雑賀寛、根本久一、鈴木和男:糸球体腎炎の発症、進行における好中球活性化の役割 SCG/Kj マウスを用いた解析. 第15回

- 腎とフリーラジカル研究会、平成15年9月、東京。
- 338) 越尾修、長尾朋和、大川原明子、馬淵綾子、鈴木和男 : The contribution of PMN and the degranulated substances to the activation of p38 MAPK and Caspase 8 in the introduction of Apoptosis of human Endothelial cell. 第76回日本生化学会大会、平成15年10月、横浜。
- 339) 鈴木和男、長尾朋和、越尾 修、馬淵綾子、大野尚仁、高橋啓、南谷晴之、直江史郎 : In-vivo イメージングによる腎微小血管傷害の解析。第8回血管炎研究会、平成15年10月、秋田。
- 340) 三浦典子、三川浩輝、安達禎之、大川原明子、大原関利章、高橋 啓、直江史郎、鈴木和男、大野尚仁 : *Candida albicans* 菌体外多糖画分 CAWS の DBA/2 マウスに対する血管炎誘発活性と反応性の解析。第9回 MPO 研究会、平成15年10月、八王子。
- 341) 鈴木和男 : 細胞・組織障害のメカニズム解析—血管炎を分子とバイオイメージングで解析する—。第12回日本バイオイメージング学会学術集会、平成15年10月、横浜。
- 342) 長尾朋和、長谷川明洋、越尾修、馬淵綾子、南谷晴之、中山俊憲、鈴木和男 : 活性酸素誘導の血小板血栓形成における CD69 の役割。第12回日本バイオイメージング学会学術集会、平成15年10月、横浜。
- 343) 大川原明子、三浦典子、大野尚仁、鈴木和男 : *C. albicans* 由来物質 CAWS によって誘起されるマウス冠状動脈炎発症における活性化好中球の役割について。第33回日本免疫学会総会、平成15年12月、博多。
- 344) 村田薫、稲見真倫、長谷川明洋、久保秀一、宮本健志、木村元子、山下政克、長尾朋和、鈴木和男、谷口克、中山俊憲 : CD69 ノックアウトマウスにおける抗 type II コラーゲン抗体誘導性関節炎発症の抑制。第33回日本免疫学会総会、平成15年12月、博多。
- 345) 長尾朋和、長谷川明洋、越尾 修、馬淵綾子、南谷晴之、中山俊憲、鈴木和男 : 活性酸素誘導性の血小板血栓形成における CD69 の役割。第33回 日本免疫学会総会、平成15年12月、博多。
- 346) 村山研、長尾朋和、越尾修、長谷川明洋、中山俊憲、新井孝夫、鈴木和男 : 活性化好中球における CD69 分子の表面局在。第33回日本免疫学会総会、平成15年12月、博多。
- 347) 三川浩輝、三浦典子、安達禎之、大川原明子、大原関利章、高橋啓、直江史郎、鈴木和男、大野尚仁 : *Candida albicans* 由来の血管炎誘発多糖画分 CAWS に対する DBA/2 マウスの反応性の解析。第33回日本免疫学会総会、平成15年12月、博多。
- 348) 濱野慶朋、広瀬幸子、鈴木和男 : MPO-ANCA 関連半月体形成性腎炎自然発症モデル SCG/Kj マウスの遺伝的解析。第33回日本免疫学会総会、平成15年12月、博多。
- 349) 武曾恵理、大川原明子、鈴木和男 : 遺伝的ネフローゼ腎炎モデルマウス ICGN の好中球活性化の解析。第33回日本免疫学会総会、平成15年12月、博多。
- 350) 鈴木和男 : Neutrophil functions of patients with MPO-ANCA-related vasculitis. 第33回日本免疫学会総会、平成15年12月、博多。
- 351) Aratani, Y., Kura, F., Suzuki, K., and Koyama, H. : *In vivo* role of myeloperoxidase for the host defense against fungal and bacterial infections. 第33回日本免疫学会総会、平成15年12月、博多。
- 352) 荒谷康昭、倉文明、鈴木和男、小山秀機 : *Cryptococcus neoformans* 感染に対する生体防御におけるミエロペルオキシダーゼの役割。第33回日本免疫学会総会、平成15年12月、博多。

- 353) 三川浩輝, 三浦典子, 安達禎之, 大川原明子, 大原関利章, 高橋 啓, 直江史郎, 鈴木和男, 大野尚仁: *Candida albicans* 由来菌体外多糖画分 CAWS による致死的血管炎誘発メカニズムの解析. 第 33 回日本免疫学会総会、平成 15 年 12 月、博多.
- 354) 亀岡洋祐, Persad Amanda, 橋本雄之、鈴木和男: ミエロペルオキシダーゼの第 8 ヘルリクスにおける日本人集団の変異頻度. 第 26 回日本分子生物学会年会、平成 15 年 12 月、神戸.
- 355) 鈴木和男: 「ガンマグロブリン: 血管炎治療のための人工ガンマグロブリン」4) 発症機構とガンマグロブリン開発. 公開シンポジウム「ナノとバイオイメージングの融合と医用への展開」—安全な医薬・治療法へのアプローチ —、平成 16 年 1 月、東京.

川西 徹 (研究協力者大幡久之)

- 354) 桐木里佳, 飯島道子, 野部浩司, 山本雅幸, 大幡久之, 百瀬和享: 培養平滑筋細胞の収縮応答に関する知見: 第 76 回日本薬理学会年会、平成 15 年 3 月
- 355) 新岡丈治, 山本雅幸, 大幡久之, 百瀬和享: マウス大動脈内皮細胞において、流れ刺激存在下リゾホスファチジン酸により増強される収縮反応と Ca^{2+} 応答についての検討: 第 76 回日本薬理学会年会、平成 15 年 3 月
- 356) 山下幸, 大幡久之, 橋本光正, 山本雅幸, 百瀬和享: 培養ウシ大動脈内皮細胞への好中球接着に対する流れ刺激及びリゾホスファチジン酸の影響: 第 76 回日本薬理学会年会、平成 15 年 3 月
- 357) 金明淑, 大幡久之, 山本雅幸, 百瀬和享: リゾホスファチジン酸存在下流れ刺激により生じる内皮細胞の pH 変化と一酸化窒素産生: 第 76 回日本薬理学会年会、平成 15

年 3 月

- 358) 桐木里佳, 飯島道子, 野部浩司, 山本雅幸, 新岡丈治, 大幡久之, 百瀬和享: 平滑筋細胞の形質転換と収縮応答: 第 123 回日本薬学会年会、平成 15 年 3 月
- 359) 山本雅幸, 蒲原崇行, 金明淑, 桐木里佳, 百瀬和享, 大幡久之: リゾホスファチジン酸存在下、流れ刺激による血管内皮細胞の Ca^{2+} 応答と pH 変化の同時測定: 第 123 回日本薬学会年会、平成 15 年 3 月
- 360) 曾根智子, 山本雅幸, 百瀬和享, 大幡久之: ウシ大動脈及びヒト臍帯静脈の培養内皮細胞でのリゾホスファチジン酸が促進する流れ刺激誘発性 Ca^{2+} 応答の性質: 第 123 回日本薬学会年会、平成 15 年 3 月
- 361) 大幡久之, 新岡丈治, 山田英之, 山本雅幸, 百瀬和享: リアルタイム多光子レーザー蛍光顕微鏡を用いたリゾホスファチジン酸による血管組織標本の流れ刺激誘発性カルシウム応答の増強: 第 135 回日本獣医学会年会、平成 15 年 3 月
- 362) 大幡久之, 新岡丈治, 山田英之, 山本雅幸, 百瀬和享: リアルタイム多光子レーザー顕微鏡を用いたマウス大動脈における流れ刺激誘発カルシウム応答の可視化: 第 24 回日本レーザー医学会総会、平成 15 年 11 月
- 363) 大幡久之, 山田英之, 新岡丈治, 山本雅幸, 百瀬和享: 多光子レーザー顕微鏡を用いたマウス大動脈における流れ刺激誘発カルシウム応答の可視化: 第 10 回バイオ・メディカル光科学研究会、平成 15 年 11 月

新井孝夫

- 364) 大内敬, 新井孝夫: モノクローナル抗体の生細胞導入のための新しい技術の開発、公開シンポジウム 「バイオイメージングとナノテクノロジー」、東京、2003 年 2 月
- 365) 鳥飼祐介, 石川広平, 大谷圭司, 栗原傑,

- 大内敬、新井孝夫、抗 Thy-1 抗体 2E11 誘因による PC12 細胞の突起伸展を阻害するモノクローナル抗体の作製、第 56 回日本細胞生物学会大会、大津、2003 年 5 月
- 366) 大内敬、柴田麻衣、前川原淳、新井孝夫、カチオン性リポソームによるモノクローナル抗体導入法を用いた細胞内タンパク質の機能解析、第 56 回日本細胞生物学会大会、大津、2003 年 5 月
- 367) 新井孝夫：モノクローナル抗体による分子機能解析、日本バイオイメーキング学会と化学工学会の連携による「ナノとバイオの融合学理構築、産業基盤形成」シンポジウム、松島、2003 年 9 月
- 368) Y. Shibata, K. Maruyama, K. Yoshida, T. Ohuchi, T. Arai: Neuroprotective effect of neoechinulin A on peroxynitrite treated PC12 cells, 第 76 回日本生化学会大会、横浜、2003 年 10 月
- 369) Y. Okada, A. Suzuki, K. Ishikawa, T. Ohuchi, T. Arai: Polyglutamylation of tubulin during the neuronal differentiation of neural precursor cells induced by retinoic acid and BDNF, 第 76 回日本生化学会大会、横浜、2003 年 10 月
- 370) 新井孝夫、大内敬：タンパク質の機能解析に有用なモノクローナル抗体の作製戦略と応用技術の開発、第 12 回日本バイオイメーキング学会学術集会、東京、2003 年 10 月
- 371) 眞島利和、大谷圭司、富江俊尚、大内敬、新井孝夫：細胞外マトリックスの X 線イメーキング、第 12 回日本バイオイメーキング学会学術集会、東京、2003 年 10 月
- 372) 清水一生、大内敬、新井孝夫：生細胞中の微小管と結合するモノクローナル抗体のリポソーム法によるスクリーニング、第 12 回日本バイオイメーキング学会学術集会、東京、2003 年 10 月
- 373) 石川広平、鳥飼祐介、新井孝夫：神経幹細胞からアストロサイトへの分化における Thy-1、integrin 分子の役割、第 12 回日本バイオイメーキング学会学術集会、東京、2003 年 10 月
- 関塚永一
- 374) Arai T., Tsukada K., Sekizuka E., Oshio C., Terao S., Hase K., Minamitani H.: RBC flow imaging and pO₂ measurement in cerebral microcirculation: Effect of hemodilution on oxygen supply to brain cortical arterioles, *Proc. IEEE EMBC 2003*, pp1054-1057, 2003-9 (Cancun, Mexico).
- 375) 南谷晴之、関塚永一、大塩力：ナノプローブとバイオイメーキング技術を用いた微小循環障害の機構解析、微小循環セミナー、第 28 回日本微小循環学会総会、2003,2 (東京)
- 376) 金澤英明、森下鉄夫、関塚永一、宮崎耕司、飯塚秀子、中村啓二郎、平野江利香、岸川浩、中野雅、西田次郎、永田博司、石井裕正：胆道内圧上昇に伴う肝微小循環変化、第 28 回日本微小循環学会総会、2003,2(東京)
- 377) 岡崎絵里奈、塚田孝祐、中楯浩康、関塚永一、大塩力、南谷晴之：原子間力顕微鏡による赤血球ゴーストの弾性解析、第 28 回日本微小循環学会総会、2003,2(東京)
- 378) 広瀬耕徳、関塚永一、大塩力、小澤正、中楯浩康、南谷晴之：糖尿病患者の血小板凝集能亢進における GPⅡb/Ⅲa の関与、第 28 回日本微小循環学会総会、2003,2(東京)
- 379) 新井達也、塚田孝祐、関塚永一、大塩力、寺尾聰、長谷憲多朗、南谷晴之：血液希釈時の脳微小循環細動脈の血行動態・酸素分圧計測、第 28 回日本微小循環学会総会、2003,2 (東京)
- 380) 中楯浩康、関塚永一、大塩力、小澤正、広瀬耕徳、南谷晴之、森下鉄夫：糖尿病状態